





少しずつ音楽との毎日

練の作曲家

柴崎 日花里

5種類の鍵盤楽器ご紹介

| | |
|---|---|
|  | 弦を下からハンマーで叩いて音を出す楽器 |
|  | 弦を爪で弾いて音を出す楽器 ギターや琴のような音色でピアノよりも強弱がつけにくい |
|  | 弦ではなく、鉄琴をハンマーで叩いて音を出す楽器 見た目はオルガンにそっくりだが音は鉄琴のよう (チャイコフスキ「金平糖」の精の踊りでおなじみ) |
|  | 仕組みはチェンバロと同じで弦を弾いて音を出す楽器 チェンバロより小型で家庭用の楽器として16~18世紀に流行 |
|  | ふいごで作った空気をパイプに送って音を出す楽器。音を出す仕組みはリコーダーに似ている (モーツァルトは楽器の王様と言っていた) |

今回のことでも定期演奏会では「鍵盤楽器のイベント」というテーマで、チェンバロ、ピアノ、チェレスタ、スピネット、パイプオルガンの、5種類の鍵盤楽器が一堂に集まってくれました。

私は今までオーケストラの、5種類の鍵盤楽器が一堂に集まってくれました。私も音色も一つ一つ違うことが興味深かったです。

今回の鍵盤楽器の仕組みの仕組みはリコーダーに似ている。音を出す仕組みはリコーダーに似ている。音を出す仕組みはリコーダーに似ている。

パイプオルガンの秘密

ふいご職人募集中!
初心者大歓迎!
給料OK! 体験もOK!
ふいごの動きを教えます!
19世紀から前はこんなポスターがあったのかも...?
※これは想像です

サントリーホールのパイプオルガンのパイプは何本あると思いますか? 外から見ると数だけで226本。さらにオルガンの中にはパイプがあり合計5898本もあります!!

オルガンの音の出る仕組みはリコーダーと同じで空気を送って音を出します。空気の送り方は、鍵盤を押すとその鍵盤につながっているパイプのふたが開き、ふいごから送られてくる空気が通り音が出来ます。今のふいごは自動で動きますが、19世紀以前はふいごを動かす職人がいました。

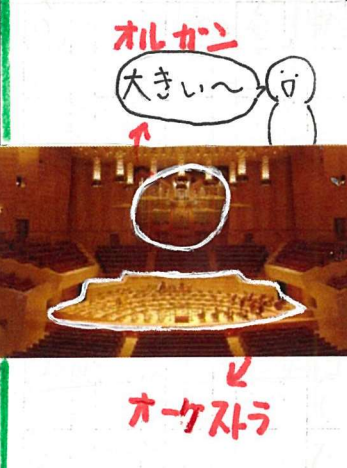
オーケストラとパイプオルガンの音が大きいと思いませんか? 私は

今回はサントリーホールで演奏された。その曲はパイプオルガンの音とオーケストラの音が大きい音比べのように演奏し合います。サントリーホールは世界最大級で天井まであるとても大きな楽器です。それに対してオーケストラは約80人で演奏します。指揮者の鈴木優人さんは「オーケストラも本気で演奏します!」と言っていました。



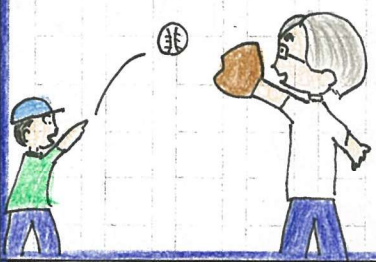
オーケストラ対パイプオルガン〜大きい音比べ〜

パイプオルガンの音が大きいと思っていました。最初の音から一緒に合わせるのではなく、オーケストラがなくても大きい音で入って、それに重ねるようにパイプオルガンも入りました。オーケストラとパイプオルガンの音はほぼ同じくらいの音量でした。いつもは繊細な音を出すと思っていたが、パイプオルガンは弓を叩いて使っている音を出している、オーケストラが本気を出すとパイプオルガンと並ぶ音量になるんじゃないかと思っていました。



指揮者鈴木優人さんはスポーツなんて大好き?!

鈴木さんは実は音楽以外に好きなことがありません。鈴木さんは子供とキャッチボールをするのが大好きです。コンサート前でも、手をケガさないようにしっかりと注意しながら、ソリソリとキャッチボールを楽しんでいます。私は鈴木さんは仕事がたくさんある



から、スポーツはしないと思っっていました。でも白ました。でも自宅でやるのも楽しいですね。しいお父さんなんです。

もしかして千手観音? 鈴木優人さん

鈴木さんの仕事は、いくつあるでしょう。うか? 私は指揮者一筋だと思っっていました。しかし、指揮者以外にも、作曲家、ピアニスト、チェンバリスト、オルガニスト、プロデューサー、演出家など、たくさん仕事をしていきます。その中でもプロデュー



サーと演出家は、人に頼まれて仕事にしたりうです。指揮者だけでなく、指揮者としての仕事にまでできることかまるで千手観音のようでした。

みなさんは緊張したことはありませんか? 私はよく緊張して、その度に「緊張したらダメ」と思っっていました。プロは緊張しないと思っ

鈴木さん 牛田さんにインタビュー! 緊張は敵? 味方?

数日前から、緊張してご飯が食べられなくなるそうです。本番もやはり緊張するそうです。お客さんに見られること



緊張しても大丈夫!! と思うとそれ以上緊張しなくなるそうです。(この方法は私も試してみようと自然とリラクスできました!!) プロは緊張をなくそうとするの

ピアニスト 牛田智大の 手と手の3つの約束

- ① 本番前に手を冷やさない
- ② 緊張した時の手の形で練習する。
- ③ 手を水につけない。

①は手が動かなくならないようにするため本番の時間になるのを待っている時は夏でもクーラーを消すそうです。②は牛田さんは癖で緊張すると手が理想の形でなくなってしまうから、緊張した時の手の形で練習するそうです。③は手を水につけすぎると皮がむけてピアノを弾く時に指がすべってしまうことがあるからです。このように牛田さんは本番ではないところでも努力をしているからこそ堂々とピアノを弾き、聴く人をその曲の世界に連れて行くことができるのです!!

<感想>今回はこども定期特派員に参加させていただきありがとうございました。牛田さん、鈴木さんに会えてよかったです。この新聞を読んだ方が、新しいことが知れたと嬉しいですね。

